

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	21463	
事業名	篠路破砕工場等付帯設備維持管理費						
評価担当課	所属名	環)環境事業部 白石清掃工場					
	課長名	堀江 透	担当者名	及川 治雄	電話番号	011-876-1710	
施策名	主	-					
	副						
アクションプラン	<input type="radio"/> 対象 <input checked="" type="radio"/> 対象外		戦略ビジョン	<input type="radio"/> 対象 <input checked="" type="radio"/> 対象外			
事業の性質	<input checked="" type="radio"/> 経常経費 <input type="radio"/> 臨時的経費						
	<input type="radio"/> 内部管理 <input type="radio"/> 法定経費 <input type="radio"/> 指定管理						
事業内容	実施形態	<input type="radio"/> 直営 <input checked="" type="radio"/> 一部委託 <input type="radio"/> 全部委託 <input type="radio"/> 補助助成 <input type="radio"/> その他					
	目的	短期	プラント設備、同付帯設備の運転及び機器の維持管理・保守・点検・修繕を行う				
		長期	市域内から発生する一般廃棄物(粗大ごみ、大型ごみ、燃やせないごみ)及び破砕が必要な可燃性事業系一般廃棄物を焼却に適するよう前処理を行う。				
	取組内容	当該施設は、廃棄物の処理及び同法施行規則に基づき、市が収集した一般廃棄物(粗大ごみ、大型ごみ、燃やせないごみ)及び破砕が必要な可燃性事業系廃棄物を破砕処理する施設であり、委託業務で運転維持管理を行う。 また、篠路清掃工場の解体工事に伴い、敷地内施設(破砕工場・ごみ資源化工場)へ電力・熱源等を供給するために新設された分岐棟の維持管理を行う。					
	実施結果	破砕処理量が目標が下回る結果となっているが、ごみの減量や新型コロナによる事業活動低迷によるごみ受入量減が影響している。					
事業実施における工夫点	施設の老朽化が進む中で、ごみの適正処理を行っていくためには適切な整備・保守が必要となるが、実施内容を精査し経費の圧縮に努めた。						
対象者	市民・市内事業者			開始	0 年度	終了	0 年度
関連法令・条例・要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、及び、同施行規則						
他都市の状況	他都市の同種施設においても、各設備の維持管理に務め、施設全体の定格能力の確保を図るため、日常的な点検・整備と老朽化した設備の更新が逐次実施されている。						

## ◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	364,107	338,022	384,960	342,225	
うち特定財源	364,107	338,022	338,021	342,225	
人工	5.0	5.0	5.0	5.0	
人件費	36,000	36,000	36,000	36,000	
計(事業費+人件費)	400,107	374,022	420,960	378,225	
事業費の内訳	令和3年度決算	決算額 384,960千円 <内訳> 諸手当598千円、燃料等需用費93,872千円、整備等委託料285,954千円、その他4,536千円			
	令和4年度予算	予算額 342,225千円 <内訳> 諸手当1,663千円、燃料等需用費79,070千円、整備等委託料256,990千円、その他4,502千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1		指標名	破砕量(t)(破砕工場総計)		
		令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
		47,856	45,482	44,372	41,455
活動指標2		指標名			
		令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
成果指標1		指標名			
		令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
成果指標2		指標名			
		令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	大型ごみ等を滞りなく適正に破砕処理することができた。また、破砕したごみの中から金属を回収し資源化を行った。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	破砕工場に求められる機能である破砕量(指標)は十分な実績を上げている。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	ごみの破砕処理は大型ごみ等を適正に処理するために欠かせない工程であり、一部を委託により維持管理していく必要がある。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	市域内の一般家庭から排出される一般廃棄物は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」において、市町村に処理責務があり、当該事業は、大型ごみ等について、関係法令を遵守しつつ衛生的に処理するものであり、市民生活に不可欠な事業となっている。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外    市民参加結果への対応 <input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映				
今後の改善点	更新事業が具体化しているものの破砕工場設備の老朽化が進む現状においては、引き続き破砕処理機能を維持するために適切で十分な整備・保守を行う必要がある。				
前回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	老朽化が進む中、適切な整備や保守を継続的に行う必要があるが、実施内容の精査や篠路清掃工場からのインフラ切替で稼働した分岐棟により経費の圧縮に努めた。			見直し効果額 (前年度)	0 千円
今回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	大型ごみ等の適正かつ安定的な処理体制を維持しながら、新たな処理施設の整備計画の策定や今後の工場の運用計画の検討に併せて、より効果的な運営体制の検討・見直しを進めていく必要がある。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善    ○ 現状維持    ○ 休止・廃止 老朽化するプラント設備の安定運転を確保するため、主要機器の定期的な部品交換は必要であるが、施設更新も見据え整備内容の精査を行い事業費の抑制に努める。			
	予算	● 拡充    ○ 現状維持    ○ 縮小    ○ その他 定期整備等の実施内容を見直し経費節減に努めてきたが、突発的な故障・修理費については、現状予算内での対応は困難となってきている。			見直し効果額